

## 繋がる地球

遡ること半世紀前の1963年11月23日は、NHKが、人工衛星を使って、初めての日米リレー中継を行った日です。

今では、リアルタイムで世界中のニュースが飛び込んで来ており、日米間で同時中継をするというのは珍しくも何ともありませんが、当時としては画期的なことでした。

私はまだ高校生でしたが、新しい時代が始まる予感がして、アメリカから流れてくる映像をワクワクしながら待っていたことを思い出します。

しかし、そこで初めて目にした映像は、ケネディ大統領がダラス市内をオープンカーでパレード中に狙撃され、亡くなったということでした。

ご存じのとおり、ケネディ大統領は、大統領に就任した時はまだ43歳という若き世界のリーダーでした。自由世界の旗手といった方が良いかも知れません。彼の在任中に起こったキューバ危機は、第三次世界大戦や米ソ核戦争を想起させ、世界中が固唾をのんで見守っていました。世界の行く末は、ケネディ大統領とソ連のフルシチョフ首相、二人の手に握られていました。私は、老獪なフルシチョフ首相に対して、揺るがず毅然とした態度を取り続けたケネディ大統領に、強い憧れを感じたものです。

そのケネディ大統領が暗殺され、しかもその映像は、今この時間に、アメリカが直接日本に向けて放送しているというのですから、衝撃は何重にも大きなものがありました。

また、この日米リレー中継の成功は、翌年行われた東京オリンピックでの国際テレビ中継に繋がったことを付け加えておきたいと思います。

時代は下がって、技術革新は凄まじく、テレビの世界はまさにグローバル化しています。

2001年9月11日のアメリカ同時多発テロ事件の際には、ニューヨークの世界貿易センタービルに旅客機が突っ込む瞬間、あの大きなセンタービルが

崩れ落ちていく瞬間を、アメリカからの実況放送により目の当たりにしました。

また、今年の3月11日の東日本大震災の状況も、リアルタイムで世界中に流されたことでしょう。

そして今や、世界は、テレビで繋がる時代からインターネットで繋がる時代へと大きく変化しつつあります。ネット上のニュースはあっという間に世界中を駆けめぐり、それによって多くの人々が動かされる時代になりました。

この地球は、繋がる時代の中で、ますます小さなものになっていくでしょう。そして、この小さくなっていく地球の中で、私たちの住む日本が、また、私たち自身がどう生きていくのか、問われています。(塾頭 吉田 洋一)